

研究実施のお知らせ

2025年7月2日 ver.1.0.

研究課題名

悪性リンパ腫に対する造血幹細胞移植治療の実態

研究の対象となる方

2006年1月から2021年12月に悪性リンパ腫に対して造血幹細胞移植を行った16歳以上の症例で、移植管理一元管理プログラム（TRUMP）データに登録されている方です。

研究の目的・意義

日本造血幹細胞移植データセンターにより毎年、疾患別移植件数や移植ソースの全国調査報告書が公開されています。しかしながら、これらの報告書では悪性リンパ腫の詳細な病型分類別の情報までは含まれていません。一方で、悪性リンパ腫の治療方法やその成績は、病型毎に固有の分子細胞生物学的特徴に基づく自然史や病態形成過程と強く関連しているため、造血幹細胞移植の位置付けも病型毎に異なっています。そこで、本研究では、移植登録一元管理プログラム（TRUMP）のデータを用いて、本邦における悪性リンパ腫に対する自家移植及び同種移植それぞれの移植件数や移植成績等を、病型分類別に集計・分析し、その実態を明確にすることを目的としています。

近年、悪性リンパ腫に対する新しい治療法（CAR-T療法など）が開発・導入され、造血幹細胞移植の位置づけが大きく変化してきている現状を踏まえて、本研究では全国規模で長期にわたる移植情報を一元的に分析することで、これまでの悪性リンパ腫に対する移植の実態を明確にすることで、今後の悪性リンパ腫に対するより適切な移植医療の実施に繋げることができると考えています。

研究の方法

この研究の解析は、京都第一赤十字病院で行います。移植管理一元管理プログラム（TRUMP）データに登録されている既存データを用いて、各病型分類別の自家移植・同種移植件数、移植時患者背景、移植方法、全生存割合、無生存割合、無イベント生存割合、再発割合、移植関連死亡割合、死亡理由、急性および慢性GVHDの累積発生割合（同種移植のみ）、移植後合併症等に関して後方視的に解析を行います。

あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。具体的な個人情報の取り扱いについてですが、研究用に収集する情報を患者さんの氏名や患者ID（診察券番号）などとは、きりはなして保管します。その際、収集した情報が全く誰のものかわからなくなってしまうと、正しく情報が収集されたか確認できなくなるため、ひとりひとりの情報ごとに研究用に新しく符号をつけます。個人と符号化された

情報を対応させる対応表は、研究責任者が厳重に管理し、他の機関へ提供されることはありません。

研究の期間

2025年7月（研究許可後）～2026年12月31日

研究組織

●研究代表者（総括責任者）

京都第一赤十字病院 血液内科 村松 彩子

日本造血・免疫細胞療法学会

造血細胞移植登録一元管理委員会が設置するワーキンググループ（WG）

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人・患者さんご本人の保護者または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。利用停止をお申し出いただいてもいかなる不利益を被ることはありません。なお、利用停止のお申し出は、2026年12月までをお願いいたします。ただし、それ以前であっても、解析・結果の公表を行った場合などは、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

相談窓口

京都第一赤十字病院 血液内科 村松 彩子

〒605-0981 京都市東山区本町 15-749

電話 075-561-1121（代表） FAX 075-561-6308